10月10日は世界死刑廃止デーです

世界に問われている日本の死刑

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

　スーツ姿の人の前で吊るされているように見える裸足の人……これは世界死刑廃止連盟（ＷＣＡＤＰ・本部パリ）の２０１７年世界死刑廃止デー（10月10日）のポスターです。

　「貧困と正義」と記されています。世界各地で貧しい人々が犯罪に追いやられ、死刑を含む重罰を受けていることを問題にしています。貧しい子どもたちが、麻薬の売買などに関与させられてしまうことも多いそうです。

★☆★

　「犯罪」の責任の一端は社会の側にもあるのではないか、そんな反省を含め、世界中で、死刑制度は廃止されたり、死刑の執行が控えられる傾向にあります。

　現在、死刑を廃止した国、10年以上死刑の執行を停止している事実上の死刑廃止国を合わせれば、１４１ヵ国になります（２０１６年12月末／アムネスティ・インターナショナルの調査）。「先進国」とみなされているような国で、毎年のように死刑を執行しているのは、日本とアメリカの一部の州だけです。

★☆★

　マスコミの犯罪報道を耳にしていると信じられないかもしれませんが、統計的には、殺人などの「凶悪」犯罪は日本では減少の一途をたどっています。日本ほど治安は良くないにも関わらず、冤罪の危険性や人権上の観点から死刑を廃止してきた世界の国々からは、「なぜ、日本は死刑を廃止しないのか」と疑問に思われているのです。あなたはどう答えますか。

★☆★

　『無知の涙』という本を出し、自らの不幸な生い立ちを省みながら社会の罪を問うた永山則夫さんが、東京拘置所で死刑執行されて、20年になります。執行されなかったら、彼は、どんな思いでこのポスターを見たことでしょうか。